

はじめに

現在、日本では国民の4人に1人が高齢者となっている（65歳以上の高齢者数3,392万人：平成27年総務省）。高齢化に伴い、障害者や有病者も増加している（障害者数788万人：平成27年度障害者白書）。

現在、40歳以上の国民の7～8割は歯周病に罹患しているといわれているが、障害者は、理解力や認知機能の低下、上肢の運動機能の障害などにより口腔清掃が困難なことが多く、歯周病に罹患している人の割合は健常者より多いと思われる。また、有病者は、様々な薬剤を服用しているので、ドライマウスになりやすく、う蝕や歯周病の罹患率も高く、薬物性の歯肉増殖が認められることもある。さらに、遺伝性疾患、糖尿病、染色体異常などによる免疫機能や抵抗力の低下など生体側の問題により歯周病が重度化することもある。これらの問題を抱えている障害者や有病者のなかには、歯科治療の際に特別な配慮の必要な方（スペシャルニーズペイシエント）が多いと思われる。

スペシャルニーズペイシエント（障害者・有病者）の歯科治療時の問題点としては、治療に対する適応性（協力度）や全身疾患などのため理想的な治療が行いにくく、様々な行動調整法や全身管理などが必要なが挙げられる。また、治療後のう蝕や歯周病の管理においても、セルフケアが期待できないため、プロフェッショナルケアの割合が多くなり、歯周病の場合では、メンテナンスよりもSPTを行う患者が多いのが現状である。特に、歯周基本治療やSPTでは、歯科衛生士の役割がとて重要であり、チームワークが必要になる。

われわれ歯科医療従事者は、スペシャルニーズペイシエントの治療に際して、①障害や全身疾患に対する知識と理解、②障害の種類と歯科的特徴、③医学的管理、③歯科治療時の配慮（対応法）などについて事前に学ぶことが必要である。さらに、これらの患者に対してノーマライゼーションの考えに立ち差別することなく対応することが重要になる。

歯周治療関連の専門書は多く出版されているが、スペシャルニーズペイシエントを対象にした歯周治療の専門書は少ない。そこで、本書はスペシャルニーズペイシエントの歯周病の特徴と歯周治療法および術後の管理などについて、わかりやすく記載し、症例を多く取り入れ、実践的な内容にしたいと考え企画した。

本書は、これからスペシャルニーズペイシエントの歯周治療に取り組みたいと考えている先生や歯科衛生士の方々、また、日本障害者歯科学会や日本有病者歯科医療学会の会員の方々の必読書である。明日からの臨床に役立つものと確信している。